

広げていきます！

子どもたちの『好き』を

あそびをベースにし

プレイルーム
完備！

個別室・家族室も完備！

地域最大級の広さ！



児童発達支援



SORATOてんり



小学校就学に向けた療育プログラム

就学前のお子さまの児童発達支援施設で、発達に偏りや凹凸のあるお子さまに対し、言語聴覚士による発達検査を行い、言葉の発達をサポートします。楽しい遊びを通じて、言葉の発達を促し、小集団でお子さまの表情や気持ちの変化を大切に、保護者と協力して将来に安心を育みます。

遊びや生活の中で感じたことを自分の言葉で伝えることができるように
さまざまなプログラムを通してサポートします！

就学に向けた療育プログラム

子どもの好きなあそびを中心に、『人と関わっておもしろい！』『ボクはこんなことが得意だ！』を感じられるように取り組みます。子どもたちは、あそぶ中で自然とコミュニケーションの力や、集団の中での行動する力を身に付けていきます。

言語聴覚士によることばのサポート

言語聴覚士と連携を図り、言語発達検査をおこないます。その結果をあそびの中に取り入れることで、より子どもにあった療育を提供します。

SORATOてんり

多機能型

児童発達支援

Tel.0743-85-4172

奈良県天理市川原城町812番地1-1階 Fax.0743-85-4173 メール:sorato-tenri@sorato-umie.com

●サービス提供時間:平日9:00~12:00・13:30~16:30/休学日(祝日)9:00~12:00・13:30~16:30

●定休:土曜・日曜

●事業所番号:2950900056

●送迎なし

SORATO☆UMIE | EMIFULL



Instagram
@soraten_ryouiku



HP



その子の「できた!」を大切にする。そのために必要なことをすべて。

子どもの適応には、「楽しいと感じる」経験が重要です。楽しい活動での成功体験が、学びや新たな挑戦へとつながります。私たち「SORATO・UMIE」の療育理念は、子どもたちの「できた!」を尊重し、大切にすることにあります。



責任者からのメッセージ



理事長
松尾 太郎

医師であり父親でもある私は、発達がゆっくりな子どもに適した児童発達支援サービスを見つけることができず、それをきっかけに「SORATO・UMIE」を立ち上げました。私たちの療育プログラムは、言語聴覚士のサポートや科学的なアニメーション教材を活用し、根拠のある支援を提供しています。最も重視しているのは、「教える」よりもまず「楽しい」を通して子どもたちが成長すること。子どもたちが学びやコミュニケーションを通じて楽しい毎日を過ごせるように願って、様々な療育に取り組んでいます。

サンテレビニュース「発達障害の息子へ 医師である父親が施設を開設」→



こんなお子さまの発達のサポートをします

言葉が出てこない

お友達とうまく遊べない

発音がわかりにくい 等

タイムスケジュール

- 9:15(14:00) 来所
手洗い、うがい、排泄など
- 9:30(14:15) 自由あそび
- 9:45(14:30) 設定あそび
体育あそび、創作あそび、
お外あそびなど
- 10:30(15:15) おやつ
※おやつ代は1回100円の実費負担
- 10:45(15:30) 個別課題・絵本
- 11:00(15:45) 帰りの準備・排泄
- 11:15(16:00) 退所



【つき組】

(小さいお子さまのクラス)
火・木曜日の午前



【ほし組】

(年少～年中クラス)
水・金曜日の午前

クラス
編成



【ひかり組】

(年中～年長クラス)
火・木曜日の午後



【にじ組】

(年長クラス)
月・水・金曜日の午後

※クラス編成は目安です。ご家庭の都合をお聞きして利用曜日や時間を一緒に考えていきます。 ※午前9:00～12:00/午後13:30～16:30

※送迎は予定しておりませんので、保護者の方でしていただきますようお願いいたします。(駐車場4台分ございます)

※お子さまを送ってきていただいた後は、療育室の隣に保護者の方の控室を設けておりますので、そちらでお待ちいただけたらと思っています。(ご兄弟と一緒に来所されても過ごせるようにおもちゃなどご用意しています)

※職員が保護者控室にお邪魔して、日頃の悩みをお聞きしたり、他の保護者の方と一緒に考えたりする時間も設けています。



EMIFULL

「SORATO・UMIE」は、医療法人社団EMIFULLによって運営されています。

この度「子どもの福祉」の一つの形として放課後等デイサービスおよび児童発達支援の二つの事業を新たにスタートさせました。これからも私たちの「地域貢献」にける思いは途切れることなく、日々新たな貢献の形を模索し続けます。